

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

多可町長

市町村名 (市町村コード)	兵庫県多可郡多可町 (283657)	
地域名 (地域内農業集落名)	中区 (西安田集落)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年9月15日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、杉原川沿いの平地にほ場整備され川の水利を利用する農地と、山間でほ場整備されているものの、一筆の面積が約10a前後の小さいほ場が連坦する、ため池の水利を利用した農地がある。10a以下の農地は全体の約6割(300筆以上)もあり、広い農地面積を有する当地区においては、効率的な営農を実施するための障害となっている。

特産の山田錦をはじめとする酒造好適米やうるち米など、水稻が7割以上の農地で作付けされているほか、農会が中心となって黒大豆のブロックローテーションを実施し農地の活用を図っている。また耕作者も約7割が60才代以上で高齢化が進み、機械更新ができず離農者の増加が今後懸念される。あわせて池からの水利は水番費の課題がある。

【基礎データ】

- ・農家軒数 47軒 うち認定農業者3名、集落営農組織1組織
- ・主な作物 水稻(うるち米、酒造好適米)、黒大豆、一般野菜

(2) 地域における農業の将来の在り方

10年先にかけては60才代の農業者約20名を中心に地区内の農地を耕作していくことができるので、遊休農地の発生は防ぐことができる。あわせて耕作農地周辺の遊休農地を集積しながら維持していく。特産の酒造好適米や黒大豆とのブロックローテーションを継続し、うるち米とあわせて生産効率をあげ、地域の農地の活用と農業所得の安定を図る。しかし、10年以上先については機械の更新や非効率な農地が多いため農業を維持できるか不透明な部分もあり、早い段階から若年層や非農家の農業参画を地区内でも取り組んでいきたい。

またため池からの水管理については、省力化のためスマート農業機械等の導入を検討し、少人数でも対応できる管理方法について検討を進めていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	53.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	53.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・3軒の認定農業者、農会、60才代の耕作者17軒を中心に集約集積を進める。集団転作をさらに進め効率化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・地権者や耕作者の理解を得て中間管理機構を活用しながら集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
・多面的機能支払交付金事業を活用し、農業用施設の漏水等を修繕していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・関係機関と連携し多様な経営体の確保に努める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の活用方針
・JAみのりの水稻航空防除や刈取りオペレーター等の活用を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①⑦多面的機能支払交付金を活用して、獣害防止柵や農業用施設の維持点検、修繕を継続する。